

# 平成28年度 第1回桑名市子ども・子育て会議議事録

日時：平成28年5月31日（水）午後1時30分

場所：桑名市役所5階 中会議室

## － 会 議 次 第 －

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事

認定こども園設置の凍結に至る経緯及び子ども・子育て会議のあり方について

4. その他
5. 閉会

○子ども家庭課長補佐 皆様、こんにちは。子ども家庭課の伊藤と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

定刻となりましたので、ただいまから、平成28年度第1回桑名市子ども・子育て会議を開催いたします。ここからは、すみません。座って失礼させていただきます。

本日は、御多用の中、本会議に御出席いただきましてありがとうございます。

開会に先立ちまして、本会議は公開で行うことといたしております。本日、傍聴の方は6名の方がお見えになっておりますので御了承ください。また、今回から3名の方が役員交代等に伴いまして、委員に就任していただくことになりましたので、御紹介をさせていただきます。

桑名市健康推進員会代表、中山喜代子様、桑名郡市小中学校長会代表、岡南良二様、そして、桑名市社会福祉協議会、松田秀之様の3名の方でございます。3名の方におかれましては、御快諾をいただきありがとうございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

なお、委嘱状につきましては、本日、机の上に置かせていただきました。略式にて配置させていただきますことを重ねて御了承ください。また、中山委員と岡南委員におかれましては、本日、所用のため御欠席との連絡をいただいておりますので、後日事務局からお渡しさせていただきます。

それでは、ここで新しい委員になられました松田様より自己紹介をお願いいたします。

○松田委員 それでは、改めまして、皆さん、こんにちは。

桑名市社会福祉協議会、地域福祉課の松田と申します。前任は、安田というものが出席させていただいておりましたが、安田にかわって出席ということになりました。私、地域福祉課というところで、高齢者の地域福祉をしっかりと業務しておりますが、障害者、障害児、あと子育て家庭の保護者の方々、いろんな方とかかわりながら、地域づくりに尽力してその中で、今後も、また、学ぶこともしていきながら、御一緒させていただければと思っております。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

○子ども家庭課長補佐 ありがとうございます。

なお、本日、先ほどの2名の委員のほか、西藤委員、津田委員の計4名の委員の方が所用で御欠席との連絡をいただいております。

委員23名のうち、19名の方に御出席いただいております、過半数に達しておりますので、桑名市子ども・子育て会議条例第6条第2項の規定により、会議は成立して

おりますことを御報告いたします。

ここで、事務局より人事異動に伴いまして、変更となりました職員の自己紹介をさせていただきます。

○保健福祉部長 保健福祉部長の黒田でございます。4月からこの職を拝命いたしました。本日は、本当に御多忙の中を押して、この第1回桑名市子ども・子育て会議に御参加いただきまして、本当にありがとうございます。

今回は、認定こども園の凍結について皆様に十分協議を図りながら進めていくというようなことができておりませんでしたので、皆様にその辺をしっかりと説明させていただくとともに、今後のこの会議のあり方をしっかりとお話をしたいというふうに考えておりますので、後ほど事務局からその部分について説明いたしますので、どうか、よろしくをお願いいたします。

○地域保健課長 こんにちは。4月1日より地域保健課長の安藤です。よろしくお願いいいたします。

○地域医療課長 こんにちは。3月まで地域保健課長でしたけれども、4月から地域医療課長を拝命しました黒川でございます。よろしくお願いいいたします。

○子ども家庭課長補佐 改めまして、4月1日より子ども家庭課に配属になりました伊藤と申します。どうぞよろしくお願いいいたします。

なお、本日は欠席をさせていただいておりますが、教育委員会事務局指導課長の野呂と、地域保健課母子保健係長の大平につきましても、新たに着任いたしましたので、御報告をさせていただきます。

それでは、本日の会議は、お手元でございます会議次第に従って進めてまいりたいと思います。まず、資料の確認をさせていただきたいと思います。会議次第がありまして、資料の1が、委員名簿でございます。資料の2が、事務局の名簿でございます。資料の3が、パワーポイントのものを印刷させていただいたものでございます。それと、あと、委員の皆様には、桑名市『くわな子育てガイドブック』のほうもあわせて置かせていただいておりますので、御確認をよろしくお願いいいたします。

過不足はございませんでしょうか。

○子ども家庭課長補佐 すみませんでした。

それでは、本日、桑名市長、伊藤徳宇が、本会議に出席させていただいております。初めに伊藤市長より、御挨拶を申し上げます。

伊藤市長、よろしく願いいたします。

○市長 改めまして、皆さん、こんにちは。桑名市長、伊藤徳宇でございます。

本日は、大変お忙しい中、平成28年度の第1回の桑名市子ども・子育て会議に御参加賜りまして、まことにありがとうございます。また、皆様方には、平素より市政全般、とりわけ児童福祉行政並びに教育行政につきまして、多大な御理解と御協力を賜り、この場をお借りしまして厚くお礼を申し上げたいと思います。

さて、平成24年8月に成立いたしました子ども・子育て関連3法に基づく新しい制度は、平成27年4月から施行されております。この中で、地方自治体における子ども・子育て会議の設置におきましては、努力義務とされておりますけれども、本市におきましては、全員参加型市政の立案といたしまして、子育て支援政策立案の段階からさまざまな立場の方々に御意見を賜ることが大切だという思いから、平成25年6月に条例を制定し、桑名市子ども・子育て会議の設置をいたしました。そして、会議の運営に当たりましては、平成25年度から26年度の2年間における桑名市子ども・子育て支援の事業計画策定に際しまして、そして、またその後の進捗管理などにもおきまして幾度かこの会議を開催し、委員の皆様方から、いろいろの御見識を忌憚なく披露いただいているところでございます。

このような状況の中、桑名市就学前施設再編実施計における認定こども園設置の凍結に関しまして、昨年度、この子ども・子育て会議への御説明、及び御報告が遅れましたことにより、委員長、各委員の皆様にご心配をおかけすることとなりました。先ほど申し上げましたように、本来、全員参加型市政の一環として、子育て支援政策において全庁的に取り組むためにも、この子ども・子育て会議は、桑名市におきまして、大変大切な位置づけでございまして、委員の皆様への情報提供や、御意見等を賜ることは、大変重要なことであると認識をいたしております。

しかし、この度、子ども・子育て会議の運営に係る担当職員に不手際があったことにつきましては、大変反省すべきところでございまして、深くおわび申し上げる次第でございます。

本日、平成28年の第1回子ども・子育て会議を開催いたしまして、認定こども園設置の凍結にかかる説明、並びに本会議の今後のあり方につきまして、事務局より改めて御説明させていただきたいと考えておりますが、委員長初め委員の皆様には、本日の会議開催により、機会を与えていただきましたことに感謝申し上げますとともに、今後

つきましても、御理解と御支援と御協力を賜りますように、よろしく願いを申し上げます。私からの冒頭の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いをいたします。

○子ども家庭課長補佐　　続きまして、野口委員長より御挨拶をお願いいたします。

○委員長　　改めまして、こんにちは。

今、市長からお話があった趣旨で、第1回の委員会を開くことになりましたが、本来、第1回というのは、全部の計画について推進委員を兼ねていますから、その意味では見直さなければいけないということで、その委員会を先送りにしてしまったことを、まずおわびしなければいけないと思っています。ただ、今、経過からすると、やはり、一度、話を伺って、私たちの意見を、この場で少しいただいおくということが、私としては重要ではなかろうかと判断をさせていただきました。ということで、今日は、皆さんにお集まりいただく委員会の本当の、1回目の会議ということにはならない状況になってしまったことを、まず本当に申しわけないなというふうに思うんですけども、今日は、ここで、皆さんの御意見をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、まず、事務局のほうから御説明をいただくということで、よろしいでしょうか。

○事務局　　それでは、先日本送りさせていただきました資料をご覧ください。初めに、このたびは、市民の皆様、委員の皆様には大変御心配と御迷惑をおかけいたしましたことを本当に深くおわび申し上げます。平成27年度第3回の会議におきまして、認定こども園設置の凍結に関しまして、ご報告させていただきましたが、事務局からの説明が不足しておりましたこと、また、子ども・子育て会議へのご報告が遅れたことにつきまして、今回の平成28年度の1回目の会議について貴重なお時間をいただき、改めて事務局より御説明をさせていただきたいと思っております。

それでは、資料の1ページをご覧ください。就学前施設の再編実施計画における教育にかかわる施設のあり方について申し上げます。初めに、本実施計画は「核家族化」、「少子化の進行」、「保護者の就労状況の変化」等、子どもと子育てをとりまく社会環境が大きく様変わりする中で、公立幼稚園では休園となる園も出るなどの状況から、子どもたちの社会性を育むための望ましい集団規模の確保を目的に、国の動向も見据えながら、「子どもたちの育ち」を中心において、平成25年度6月に策定されたものでございます。そして、認定こども園の設置につきましては、国の動向に応じて必要な対策を

講じ、継続的に検討する。また、ニーズ調査などを実施して、その結果によって検討すると示しながら、予定させていただいておりました。

次に2ページをお願いいたします。このたび、認定こども園設置に向けて検討してまいりました経緯の中で、再編実施計画策定後の公立幼稚園や保育所に影響するといわれる国の政策及び方向性について御説明をさせていただきたいと思っております。一つには、これからの幼児教育についてでございます。幼児教育につきましては、平成26年7月に、国の教育再生実行会議におきまして5歳児の義務教育化、幼児教育の段階的無償化が容認されております。しかしながら、小学校教育へとつながる主体的な施設として、幼稚園、保育所及び認定こども園といった、多様性があることから、より柔軟な新たな枠組みによる義務教育化を検討する、としております。ただし、これらにつきましては、現時点では不透明な状況でございます。

二つ目には、「これからの福祉施策」についてでございます。厚生労働省では、福祉サービスの包括的な統合が検討されておきまして、これまでの介護施設における高齢者、そして保育所における子どもなど、対象者ごとにサービスを提供する福祉サービスの形態を、進展する高齢化と地方における人口減少に対応するため、高齢者福祉の地域包括ケアシステムと子育て支援の包括的な提供を検討しております。具体的には、介護施設と保育所などの子ども支援施設を統合した多世代交流・多機能型の福祉拠点の整備が挙げられております。これにつきましては、まちづくりとしての拠点や、子育て支援の人材を、介護の人材確保とあわせて活用するというものでございます。このように、国の動向は、幼児教育や子育て支援といった福祉サービスの提供体制を検討するものであり、市民の皆様の生活に直結することが考えられますことから、各施設のあり方、まちづくりの方向性にも大きな影響を与えるものと考えております。

次の3ページをお願いいたします。こちらが、平成27年9月に厚生労働省より、誰もが支え合う地域の構築に向けた福祉サービスの実現のため、「新たな時代に対応した福祉の提供ビジョン」を示されたものです。先ほど、御説明申し上げました高齢者福祉の地域包括ケアシステムと、子育て支援の包括的な提供をより詳細に示しているものでございます。近年、共働き世帯の増加や高齢者の増加により、子育てや介護の支援がこれまで以上に必要になる中、高齢者介護、障害者福祉、子育て支援、生活困窮など、様々な分野におきまして、核家族化、ひとり親世帯の増加、地域のつながりの希薄化などにより、家族内または地域内の支援力が低下しているという状況にございます。このよう

な課題に対して、地域全体で支援の力を再構築することが求められるとともに、同時に、支援のあり方について、これまでのように分野ごとに十分な相談、支援が実現できるとは限らない状況が生じてきております。

全ての人が世代や背景を問わず、安心して暮らし続けられるまちづくりが不可欠であり、可能な限り住みなれた地域で生活を継続していくことができるよう、住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を着実に進めるとともに、こうした包括的な支援の考え方を全世代、全対象に拡大させ、各施設とも連携して新しい地域包括支援体制の確立を目指すことが重要となってきました。

次の4ページをお願いいたします。平成26年9月に内閣官房より発せられました地方が成長する活力を取り戻し、人口減少を克服するために具体的な政策目標を掲げ、個性あふれる「まち・ひと・しごと」創生のため、地方自治体等が主体となって取り組むことを基本として、検討して創意工夫をすることが重要となってきました。

5ページをお願いいたします。これまでの厚生労働省より出された方向性に加えまして、さらに文部科学省より発せられております提言等、検討いたします内容についてでございますが、一つ目には、無償教育、義務教育の期間の見直し、二つ目に、幼児教育の質の向上のため、小学校教育との接続を意識した見直し、3歳から5歳児の幼児教育についての無償化、そして幼児教育の機会均等と質の向上、段階的無償化を進めた上で、国は、次の段階の課題として、全ての子どもに質の高い幼児教育を無償で保障する観点から、幼稚園、保育所及び認定こども園における5歳児の就学前教育について、設置主体等の多様性も踏まえ、より柔軟な新たな枠組みによる義務教育化を検討するという内容となっております。国の動向は、幼児教育、子育て支援を含めた福祉サービスの提供体制を検討するものでありまして、市民の皆様の生活に直結するために、今後、施設のあり方、まちづくりの方向性にも大きな影響を与えているところでございます。

6ページをお願いいたします。認定こども園のニーズ調査に関しまして、幼稚園54.0%、保育園52.7%に対して、認定こども園が、23.3%と、市民の皆様の認定こども園に対するニーズも低いものでございました。そして、そのほかにも、まちづくりの観点から、また幼稚園教諭と保育士の身分や給与の統一、あるいは設置場所となる用地の確保が困難、そして財政など多くの課題がございました。

以上の内容につきまして、庁内の関係部署との協議を行う中で、検討してきました結果、当分の間、桑名市就学前施設再編実施計画における認定こども園設置は、凍結とさ

せていただき、就学前施設の形態や立地は国の動向を注視しながら、各方面と調整し、今後のあり方を検討していただきたいと考えております。

今後の方向性についてでございますが、公立の認定こども園の設置について凍結させていただいた後の対応につきましては、公立幼稚園は、国の動向が不透明ながら、子どもたちの社会性を育むための望ましい集団規模を確保することから、予定どおり就学前施設再編実施計画に沿って引き続き再編を行ってまいります。

また、保育所につきましては、国の動向を注視しながら、これからのまちづくり施策及び福祉施策の中で、施設のあり方を検討してまいりたいと考えております。

以上につきまして、凍結におきましてもう一度御理解賜りますようよろしくお願い申し上げます。

続きまして、8ページをお願いいたします。改めてではございますが、国におきましては、子ども・子育て支援新制度における政策決定の過程に、さまざまな立場の方の意見を受け入れることができるよう、子ども・子育て会議を設置いたしました。本市におきましても、子ども・子育て支援法に基づく「審議会その他の合議制の機関」として、「桑名市子ども・子育て会議条例」を制定して、会議のほうを設置させていただいているところです。この桑名市子ども・子育て会議では、子育ての中の当事者の方を初め、子ども・子育て支援に関係するさまざまな方に委員として参画いただいております。資料に記載しております所掌事務について、御議論いただいております。

また、この会議では、委員の皆様から意見を出してもらいやすいように、グループに分かれて議論を行うグループワークの手法も導入させていただきながら、さまざまなテーマについて丁寧に審議を行っていただいております。桑名市の子ども・子育て支援施策の実施状況を調査審議するなど、子どもの保護者をはじめとする子ども・子育て支援にかかわる関係者や当事者の御意見を、子ども・子育て支援施策に反映する役割を担っております。会議のあり方でございますが、委員の皆様方の御見識から、将来を担う子どもたちの子育てをする親御さんの安心につながるよう市の施策につなげていけるように、委員の皆様方のお力をお借りしているものとなっております。また、市民と行政の協働で作り上げてきました次世代育成支援行動計画の中での取り組みは新しい計画にもしっかりと継承してまいりまして、会議の進め方についても先ほど申し上げましたとおり、分科会等グループワークの手法を行なうことで、より実効性のある会議となっております。



9 ページをお願いいたします。このように、桑名市子ども・子育て会議は、委員の皆様のかかわる子育て支援について御意見をお聞きし、それを会議の場で論議して市の施策にいかしていくために、桑名市として全市的に取り組むものでございます。このたび、先ほど御説明いたしました認定こども園設置の凍結に至るまでの経緯につきまして、この会議への御報告が遅れてしまいました原因でございますが、認定こども園の設置については、就学前施設再編実施計画において計画されたものであるため、延期及び凍結についての検討や決定、議会報告に至るまでの経緯の中で、子ども・子育て会議に諮る、あるいはご意見いただくという認識がございませんでした。子ども・子育て会議の役割を十分理解できていなかったために起こしてしまった事案でございますが、責任は市の担当課である子ども家庭課及び学校・園再編推進室にございます。改めて、市として子ども・子育て会議のあり方の重要性を再認識させていただいていたところでございます。今後につきましては、協議させていただいておりますが、子ども・子育て会議の意義やあり方に対して、市職員の認識を改めるよう、担当課から全ての職員に周知をした上で、会議を進めていただきたいと思いますと思っております。

また、保健福祉部と教育委員会だけにとどまらず、子ども・子育て支援に関して、全庁的に取り組みをしっかりと認識し、努力してまいります。今後とも子ども・子育てに関する施策について委員の皆様方より多方面からの御意見をいただきたいと思っておりますが、一括りに子ども・子育てに関する施策と申しましても、様々な施策がございます。このあたりにつきましても、これから会議の中で御議論いただく事業、施策につきまして、事務局側からの御提案はもとより委員の皆さんにも、御意見をいただくことで、全員参加型の子ども・子育て支援につながっていくものと考えておりますので、引き続きご意見くださいますようよろしくお願い申し上げます。

委員の皆さんからご意見をいただいた上で、市民への周知を図りながら、協力を求め、全員参加型による施策の展開を目指してまいります。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○委員長 はい、どうもありがとうございました。

委員会としては、この認定こども園にかかわる、市としての方向性を御報告はいただいたとは思いますが、それについて余りに唐突だということと、どうしてそうなったかということの経緯が、必ずしも明らかになっていないということで、一度、事務局

のほうにお返しをしました。その後、多分、私のところにも御相談というか御説明があり、皆さんのところにも、御説明に伺ったというふうに、私は聞いておりますが、そういうことを踏まえて、今日委員会での御報告というのがあったわけですが、皆さん、いかがでしょう。きょうの御報告の中で、少し質疑の時間をもちたいと思いますが、率直な御意見。ただ、どうしましょう、これ、結局委員会で御報告をいただき、なおかつそこで質疑したことをどういう形にしておけばいいのかということになるんだろうと思います。市議会で決議されたものですね。それに対して、私たちがどういう立場で、どういうことが言い切れるのかなというのがあります。

○事務局 全員協議会でご報告をさせていただいたということになります。

○委員長 議決じゃないんですか。

○事務局 議決事項ではありませんので。

○委員長 あ、そうですか。報告をされた。

○事務局 はい。

○委員長 はい。わかりました。

○事務局 それで、了承いただいた。

○委員長 きょう御説明があつて、私としては、皆さんからも御意見をいただいて、それを取りまとめて、意見としておくいという処置の仕方をしたいと思うんです。

○水谷委員 説明をいただきまして、とにかくかくかくしかじかで、経緯というほどの経緯が載っていない、読んでいない方は多分よくわからないのですが、書いただけの話で、経緯の説明では、全くないですよ。そういうことを読んでいらっしゃる本人も知っていただいておりますながら、説明をしていただいた。しかしながら、委員会、我々のところに、これを出していただいて、協議したとしても何の変更をされるわけでもない。こういうことですね。ですから、審議事項でも何もないわけです。お詫びします、分かってくださいと言ってもらうだけの話で、済んだことは忘れてくれと言われているのと全く同じでございます。そもそも、これを議題にして、議論がということからの質問が四つあるんですけど、いいですか。

○委員長 はい。どうぞ。

○水谷委員 その中で、一番最初の私の率直な話です。今、説明いただきましたけれども、我々が、今から協議することによって、市の方向性が変わる可能性があるのか、我々にその力を与えていただいているのかいないのか、その辺がまず大きな

ところであるのと、二つ目、全体のこの印刷物を見させていただいたときに、誰も何も責任をとっていないなと思いました。全部、国のせいになっています。7ページ、国の動向が不透明と書いてある。これは、委員長のクラさんにもお聞きしたい。国の動向が不透明なんですか。

4番目、答申からこうなってきたと書いていただいております。私、答申をきょう持ってきております。第4ページに確かに載っておりますが、はっきり申し上げますと、答申を出す前に私たちは認定こども園は必要ないじゃないですかと申し上げたら、答申ができたときに、こういうふうに書かれていて、そのときに、我々が知らないところで、認定こども園をしますと決められて、我々、知らないところで、認定こども園にしませんと決められたとこういう経緯がございます。何でそうなったかという経緯は、誰も知らないわけですので、きょうも、それが開示されたとは思えませんので。この4点について質問させていただきます。よろしく願いいたします。

以上、率直な一言でございますので、ひとつお聞かせいただければと思います。

○委員長 市長、今から公務がおありになるということなので、この件については、また、後日、事務局のほうから御説明をよくよく聞いてください。よろしく願いします。

○水谷委員 はい。

○委員長 少し取りまとめの質問は、出せばいいと思うので、ほかに。

○加藤委員 水谷委員さんが言われたとおりで、そのまま、僕も同じことを思った。誰が責任とっているのというのを知りたかったなというふうに思います。ただ、それプラスアルファで、子ども・子育て会議のあり方という部分で、水谷委員さん言われた部分も含めてなんですけども、最後に2点丸でくくってあります。福祉と教育委員会だけにとどまらず、全庁的という、今までの経緯と全庁的というのは、一体、何でまた、こんなこと書くのかなと。やって当たり前の話じゃないかなと思います。

それと、2番目の全員参加型、これも先ほど、水谷委員が言われたとおり、いろいろな意見があったのに、最後まで参加しとったら意見は一体何だったのかということも一つあります。まずもって、今後のあり方という部分を含めて、行政さんのほうが、どういうふうに進めていくかという姿勢じゃないですか。もうちょっと明確なものを示していただきたいなど。水谷委員さんの話の中にプラスして、話ししていただきたいなと思います。

○委員長 はい。

○下妻委員 私も水谷委員さんの言われたとおりなのですが、やはり、今回この凍結ということに関して、凍結されて、でも、それ以前に、話し合いをしてきましたと、その経緯を話されたというか、それは、そちら側の経緯であって、我々側の経緯は、全然入っていないという感じで、我々の側の、こちらの委員と、それから、またその当事者としての意見が全然ない経緯があって、その辺のところも、これを機会に市民の皆さんにもいろいろしてもらいたいなという感じで、また、これ一つ一つ審議して、この凍結が、理解していただければありがたいかなと思っております。

○委員長 私としては、この桑名市就学前施設再編検討委員会というものがあって、そこでどういうことが審議をされ、どういうふうな取り組みになったのかということと、この子ども・子育て会議とが、どういうふうに連携するのかということ、少しははっきりさせておいたほうがいいだろうというのが、一つあります。

それから、認定こども園のことについては、実は、この報告の中で、余りきちんと議論はしていないんですけども、実際、この報告の中に、要は保育需要が高まる中で、一定程度、その保育需要自体を充足するための一つ的手段として検討するとなっているんですね。その検討をするという事項自体が、ある意味、盛られている以上、私達も検討しなければいけないではなかろうかという、私自身は責任を感じているということですね。

○松岡委員 医師会としては、園医という形でいろいろかかわらせていただいているので、幼稚園にしても保育園にしても、ニーズが殺到して、園がどうなるのかということで、今までの経過を医師会で報告させていただいております。今回、その話がなくなったということで、ぶっちゃけお金ないのでは、となって、医師会の会議でも報告させていただいております。今回の資料の6ページですが、今見ていて、桑名市就学前施設再編検討委員会からということで、幼稚園で54、保育園で52.7、認定こども園で23.3を利用したいと書いておりますが、これは本当なのかなというのが、正直な気持ちでして、これは、認知度の問題であって、ニーズじゃなくて、認知度の問題と違うかなと正直思っています。

幼稚園、保育園とも誰でも知っている、自分も出てるということなのに、認定こども園って、突然言われて、十分な説明もなく、必要ですかと言われて、正直その点、どういうふうなことで、こういう結果が出たのか、それを省略していいのか、というのが一

つ正直な思いで、認定こども園というのは、保育園と幼稚園のいいとこどりというふうにもし説明すれば安定すると思うし、中途半端だというふうに説明すればしないし、この辺説明の仕方によって全然違ってくるので、この辺ひとり歩きさせていいのかなというふうに考えます。

以上です。

○濱内委員 一般公募委員の濱内です。今年度もよろしくお願ひいたします。

僕自身も子ども、小学校6年生、3年生、ようやく一番下が3歳になるので、保育園にはお世話になり続けております。公立の中学も。

今、松岡委員が言われたように、ニーズ調査の結果というのは、本当のニーズじゃなくて認知度ではないのかということで、御質問があったんですけども、私のほうから、この資料の6ページの資料、一点抜けていると思われるニーズがありますのでお伺いしたいんですけども、きょう、ニーズ調査報告、概案持ってきて、振り返って見ていたんですけども、その中に、幼稚園の預り保育、これが24.4%ありました。またこれから、このニーズ調査にさきだって、パブリックコメントの募集を園の再編に向けて、桑名市として行ったんですけども、そのときにも、相当な数の幼稚園の預り保育をしてほしいという声があったと思うんです。

実際、僕の周りのそのときの保護者の皆さんにしても、やっぱり保育園に預けるとはいわないけども、夏休みに預り保育をやっていないがために、保育園に預けざるを得ない。そういう場合がふえてくると、だんだん保育園のほうの需要がどうしても上がるものだから、幼稚園が少なくなって、保育園が逼迫してくると。それを自分がちょうど今の3歳が、0、1ぐらいのときに、ひしひしと感じたことなので、その辺の経過ももう一度振り返っていただいて、本当の保護者のニーズ、要望というはパブリックコメントのいろんな意見の中に相当な数が出ているはずなので、かつ、それ以降をそういう調査をやられていないから、それが、現時点でも最新のデータであると思っています。その辺をもう一度、事務局のほうに確認していただいて、こういう場で、本当の保護者のニーズを考えた会議をしていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

○委員長 せっかくこういう時間も立てていただいたので、きょうは、議題なのか議題じゃないのかと疑われるととても私も苦しいところなんですけれども、この子ども・子育て会議というのは、その前の次世代をある程度踏襲した形で、皆さんの意見を聞きながら、事務局ともいろいろ意見交換しながら、方向性を定めていくというふうにやっ

てきたわけですし、そういう意味では、少々手間がかかる委員会なんですけれども、そういう意味では、皆さんの御意見をいただいて、それを次にどういうふうに生かしていくかということにしたいと思います。対立関係を何か溝を深めるばかりの議論をするのは、とても残念なことなので、せつかくこういう時間ですので、今おっしゃったような、こういうことはしていかないといけないんじゃないかとか、こういうふうにしていかないとうまくいかないんじゃないかという御意見をいただいておけばいいかなと思うんですけど。はい。

○水谷委員 伝言を理解させていただきました。議論していただきたいと思います。

○委員長 はい、済みません。じゃ、一応、きょうは、この議題で意見交換をすることによって進めていきたい。ですので、どうぞ、御意見を。

私のところには、3月の15日の日付の資料で、皆さんに御説明に伺ったと聞いていますので、そのときのことを含めて、報告も含めて御意見をいただければと思います。

はい。

○加藤委員 済みません。意見というか、どうしようかなというのが、一つ思っています。6ページに書いてある市民ニーズについて、これも最近委員会の中で、慎重に検討することが必要であるという答申をもらっていたのにと話が一かあるのと、ニーズ調査で、これだけ低かったのに、2.09話なっていました。いろいろ会議をもった中で、前部長さんだったかな、必ずやりますと言われました。その中で、こういう結果が出てきたことは、やっぱり、ニーズなり、きちんとした分析なり行政間、我々民間でしたけども、そこでの連絡なり意見が統一されていないのが、一つの原因ではないかなと思います。

ただ、また、一つやっぱり行政さんばかり悪い悪いだと、話は進まないとは思ってはおるんですけども、今回の経緯に対して、先ほど言ったように、国の動向があつてという話ではなくて、もうちょっと桑名市なりの意見交換ができる、生の声を聴いてもらえる部会じゃないですけど、そういう形で、もうちょっと細かく動いてほしいかなと思います。やっぱり行政が、主導型ではなく、みんなが主導できるような形で、意見をきちんと吸い上げてもらえる場をつくってほしいかなと思います。

○下間委員 我々のほうも少し経緯というものをまとめてきましたので、聞いてください。

○委員長 我々というのは、どの立場で。

○下間委員 私立保育園の立場で。

○委員長 はい。

○下間委員 平成24年の7月に桑名市就学前施設の再編に関する答申というのが出されました。それまでに、約2年間の予定、20回ぐらい議論してきました。中心は、どないさせて再編してやっていこうかというのが、主な内容でした。

最終的には、答申を出すに当たって、委員会として、そのころは、幼保一元化というばかりで、言葉を使っておりましたので、一元化については、一定の方向性を見出すことは、桑名市は難しいというのが委員会の中で、一定の方向性を見出すことは難しい。国の動向に注視しながら、慎重に検討していく必要があるというようなところで、我々も納得して、会が閉じられた。そして、25年、次の年にその実施計画というのが6月に出来るんですけど、その前に、いろいろと情報がちらっと漏れてきてまして、認定こども園を、「何」というような感じで。それから変更するというといっておるのに、既に諮問とかやる。我々が検討したかという、桑名市の子どものために、我々も考えて一緒にやっていくんだと、そういうのは全然なしに、いつの間にか知らないところで市の中で検討した。この検討というのは、諮問をつけて検討したという感じになってしまったんです。

それを聞いて、我々も啞然としてしまって、どうして我々にも相談しながら、相談しながら言いながら、委員会では徹底されていなかったことが、検討するということになっとなったのは、もう決定事項となって、出てきておる。そのことについて、非常に疑問を感じて保健福祉部とのやりとりもありましたし、それから、2月の段階で、市長とも請願をして、まだちょっと話がまとまってないのに勝手にやったらどうなんですかと、話を聞いてくださいよ。という感じで市長のそこへ行きました。

それで、これだけの問題じゃないんですけどね、いろいろあって。お互いに話し合いの中で、もうなってしまったことだからというような感じでいっている。我々も、まだやっぱりきょう決めた話、桑名市内の状況もわからないから、時期尚早ではないかなと言っておったんですけど、委員会のほうでは、先ほど言ったように、結論が出てなくて、相談、また検討もなく進められて、自分らにとっては、非常にびっくりしているところでいろいろ市に働かかけて。25年の6月に、その実施計画が策定されたわけなんですけど、我々は、それでおさまらないから、いろいろと働きかける。25年の10月には、元厚生労働大臣の田村さんのところまで陳情書という形で、それも出させてもらって、

どうですかと陳情に行ったりしている。そういうのをして、再三、市に対しても働きかけをしたわけなんですけど、結局は、相手にされなかったというのが経緯でございます。

そして、何回聞いても、決まったことだから決まったことだからと言いながら、いよいよその実施の直前になって、凍結ですという感じで言ってきた。今言っているように我々にも相談なしに、決められていた。先ほどからいろいろと相談して相談してと言われておるけど、我々は、こういう会議、相談の会議には何回も出ておるんですけど、行政の思うほうにすつとやっぱり行ってしまつとって、我々の思っているところのほうにはいかないことになったりする。そういうことになって、凍結ということになるしね。勝手にこのようになっていたということに対して非常に疑問があったし。

それから、また、凍結、その辺に対して物すごい疑問があつて、次、凍結が解除せよと思つているためにという感じで私は言うておるわけで、その行政の姿勢にいろいろと、我々にとっては疑問視される信頼がおけない部分というのがあるわけだ。ただし、そういう信頼のない中で、一緒に桑名市と、それから我々民間も公立もあわせて一緒になつてやらないと、無理なことがあると思うんですよ。そういう中で、信頼関係が、かなり損なわれておる部分があるので、この経緯が説明されたわけなんですけど、反省とするならば、国の方針がどうのこうのじゃなくて、我々って、皆さんもですけど、我々もそうだけど、行政側もこのことを二度と起こらないように、どうするかということ、国の問題じゃなくて、あなたたちの姿勢をもうちょっときちつと正す、考え直してもらつて、それで、「一緒にやっつていこうやないか」という気持ちをもつともつてもらいたいと思つますね。その辺のところを、私、非常に言いたいと思つます。

以上です。

○委員長　　まだ、御意見出されていない、一つ、じゃあ、高橋さん、それからいきま  
すか。どうぞ、やっぱり一言、二言、今、御説明を受けたわけですから。御意見をいた  
だいていたほうがいいのかなど。

○高橋委員　　私は、この会議に出させていただいて、いろんな話し合いをして、非常  
に行政としては、意見を受けとめてくれているのかなと感じていました。とても、その  
辺は、担当をしていた人たちも、非常に真面目に取り組んでおられると思うのはありま  
した。だけど、いろんな委員会であつたりとかというのは、すごく数多くて、分野、  
分野というか、こことここというのは、今、ここの最初の実施計画であつたり、いろん  
なもの、分かれていくところにもつて誰がそれを総合的に見て、決めていくんだらう



というところが曖昧になって、うまく回していかなかったのかなと思うので、今後に向けては、そういうものをきちっと、回る仕組みをもうちょっとつくっていかないといけないのかなと感じています。だから、先程の御意見でも、凍結する、しないとかという問題じゃなくて、プロセスに問題があるということを提案されて、御意見を言われているので、そのところの検討をもっとこれからの市政として、考えていく必要があるのかなと思っておりました。

以上です。

**○濱内委員** 先ほども発言させていただいたんですけども、やっぱり市は当事者であり、子育て世代の親のほうへ、それが反映されていないのかなというのが、ずっと行政に対しては思っているところがあります。それは、やっぱり幼保一元化の説明と学校・園再編室の説明会のときでも、私、長島の地区ですけども、明らかに賛成という声はなかったにもかかわらず、どんどん認定こども園ありきという形で、進んでいるというのは、実際、保護者の目線で見てもそれはすごく感じました。

長島が特に反対していた理由としては、同じ敷地内ではなくて、ちょっと離れた幼稚園と保育所を強引に行き来させるとかいうようなことですね。計画段階になって、材ツのキロとか、テナキの中で、子どもを移動させるのはどうかというような意見で反対が多かったんですけども、その当時としては、やっぱり認定こども園ありきというのは、もうあからさまでした。

また、この会議をさせてもらっていて、公立幼稚園の預り保育やってくれないかということ発言させてもらっているんですけども、やっぱりそれは私学の先生方の思惑もあると思うんですけども、なかなか実現もされず、本当の保護者のニーズが、置き去りにになっているのは残念です。一般公募で親の代表としては出ている和家ですけども、結局、何ら説明されていなくて、余り建設的な会議じゃないかなというのを、すごく感じております。行政の方々は、本当に真面目で、取り組んではくれるんですけども、もう一步本当にこれからも、桑名の子育てのことを思うと、そういった目線でこの会議を進めてもらいたいというのが、きょう言いたいことです。ありがとうございます。

**○星野委員** 桑員歯科医師会の星野と申します。

私、この子ども・子育て会議に入ってから間もないですが、認定こども園に関して経緯とかわかっておりませんでしたので、それに対して意見を言うことはないんですけども、私、歯科医師会のほうでも桑名市だけでなく、いなべのほうにも行っておりました。

て、幼稚園と小学校の再編とかというの出てきますが、そうですね。その人数をどうするか、何をやらしてもらおうとか、そういうのは本当に、これから、そういう子どもが減ってくるということが出てくるでしょうから、そういうところは、市の方の意見もよく聞かせていただいて、我々のほうもわかってくるのでというようなこと皆さん言っていられちゃうと思いますので、よろしくをお願いします。

○松岡委員 今回のことは、認定こども園ありきで動き出したけど、医療センターとか、いろいろ予算もかかるので、計算的な問題で頓挫したというように、私は理解しております。

以上です。

○松田委員 一番最初に御挨拶させていただいた桑名社会福祉協議会の松田ですけども、私、一番初めのお話では、高齢者を中心とした地域福祉ということで、日々、業務に就いているわけなんですけど、私もきょう初めてこの会議に出させてもらって、認定こども園のことは、会議の途中でちょっと聞いたもので、ネットで、ちょっと追いつかなあかんということで、勉強していたところなんですけど、まだまだ勉強不足の部分があります。私、この会議でも小学校の子どもができてきて、桑名市でもまだなかった複式学級が出てきたと。複式学級ができて、子どもたちがどんどん減っていく中で、教育のあり方とか、支え方、取り組み方というのを考えていかないといけない時期に、桑名も来たのかなと。

この会議の今の話のもうちょっと後の話になると思うんですけども、私たちにも子どもころがあって、子どものときにあったものが、今、ないものというのが幾つかあるのかなと、いろんな家庭での二世帯、三世帯の交流の中でのそれぞれの役割があって、子育ての支援体制、地域での、御近所での、地域で子どもを育てていた時代から、そうでなくなってきた時代の中で、子宝といわれる子どもを地域でどうやって育てていくかというところを私としては、そのあたりにちょっとこだわって、この会議で、勉強しながら意見を言いたいなと思っていたんで、今、ちょっと違うところですれ違ってはいるんですけど。

○委員長 すれ違ってはいないです。それをずっとここは審議をしてきましたね。この報告書の中にも、多分、地域で子どもを育てるということは、やっていますので。

○松田委員 問題のところ、今、新聞紙上でいろんな記事が毎日のように、他県とか他市町でも出ていますが、桑名でもそういったことは、できたら、起こらんように、

これからもまた聞きたいと思っておりますので、勉強しながら意見を申し上げていきたい。特に、そういったところは、私自身もこだわっておりますので、意見を申し上げたいなと思っております。

○水谷委員 私立幼稚園の代表の水谷と申します。

心情的なところの解説を生意気にもさせていただきますと、事務方として向こう側に座っていらっしゃる皆さんと、こっちに座っている皆さんと多分、恐らく同じやと思えます。事務方の皆さんもどないなっただか教えてくれという気持ちは同じなんだと思えますけどね。その中で、説明をせざるを得ない、知っていることは、もうこんだけしかないのよ、というアピールに聞こえました。そうなんだと思えます。目に見えないどこかで何か動いているんだと思えます。だから、そこら辺について一つのステップとして私たちは探らねばならないのが、この会議かなと思っております。

○水谷委員 よろしくお願ひいたします。

中学3年生、小学4年生、1年生、5歳の母です。私たち自身が、子育ての中でもニーズと思われること、非常に早く変わりつつあると感じています。特にそうしてないのでしたらやはりそれは仕方ないのかなと一般市民としては、感じてしまいますが、園を経営されている方のお話を聞くと、その背景にはいろいろと考えていらっしゃると思えます。勉強させていただいているというにしかすぎないんですけども、それぞれが、次々と変わっていく私たちの感情や、桑名市ではそうないかもしれないとおっしゃっていた人でも、シングルマザーや、貧困家庭と思われるんじゃないかなという、子どもたちを身近に感じるが多くなるころについて、園や行政の手の届かないところを色々な形で、支え合っていくような活動が起こってきているというのも、もっと情報、こういった会議の中で、子育て世代の委員が取り上げていければいいのかなと感じています。

○渡部委員 主任児童委員部会のほうへも何度も来ていただいて、説明をいただいているんですが、たった24人の市民児童委員の集まりの中で、説明をしていただいても、物すごいたくさん質問が出たりとか、それぞれの担当する主任児童委員がかかわっている子育て中のお母さんたちの話などを代弁させていただいたりとかいうこともさせてもらっていたんですが、本当にこの子ども園ができる、再編があるということで、子育てというか、小さいお子さんを抱えるお母さんたちが、どうしたらうちの子の保育園、どうしたらええやろ幼稚園、どういうふうを選んでいったらいいんやろうと、真剣に悩んでおられた時期があります。

それを、やめます。もう国がこうだから、厚労省がこうだから、文科省がこうだから、やめましたというのを、また、説明会があって、聞いているんですが、やっぱり、どうなんって、ここに書いていただいていることは、もう信用できないなど、こちらのほうに選ばれている方たちですら、納得できないようなことが、果たして市民全員が納得できるのだろうか。子育て世代のお母さんたちが、また、いろんな形で、私たちのためにこんなふうを考えてくれているのねというようなことを行政の方々が考えてくださったり、私たちが、日々こういうサービスがあったらいいですよって訴えたことが、果たして、それが、この紙のベースだけで、終わってしまっていくんだったら、もう、言わんほうがいいよねとか、あっちの町のほうが子育てしやすいから、パパもそっちなら通えるし。みんなかわろうかというふうに、移っていってしまうんじゃないかなと思います。「3人子育てができるまち」というのは、それもちょっと見通しも心配を最近するようになっていきます。

主任児童委員の中では、やっぱり子育てしながらの中で、いろんな不安なことも話を聞くと、やっぱりお母さん、仕事に行きたいんだけど、保育園に、誰に頼んだらええんやろかとか、第一希望、第二希望、第三希望ってあるけど、第三希望まで落ちてしもたらどうするんやろかという、そういう日々の子育ての小さな不安が届けられている中、それをきちっと声を聞いていただいて、この子ども・子育て会議でも、未来への子どもとか、桑名で子育てしてよかったねと思われるような話し合いを、ここでされているので、それを原点に置かれて、きちっと桑名市としてどうするかをちゃんとしていただきたいなと思います。

県がどう、国がどうというのは、きっとあると思うんですけど、でもやっぱり、桑名市で生活している市民は、桑名市でどうなんって、桑名市でちゃんとやってくれるのというところが、一番聞きたいところだと思いますので、桑名市としてどうあるべきかをきちっとしていただきたいと思います。やると言ったらやってほしい。やらないと言ったらやらない。そのあたりをふらふらと振り回されるのは、真に子育てをしている当事者の方たちです。子どもはやっぱり、年齢に応じて大きくなっていくので、自分たちが、今そのニーズはなくても、お母さんたちって割と、ママ友で、次の子供たちのためにも、こうやって考えていかないかんよねということをきちり持っていらっしやいます。なので、桑名市が、ふらふらしないしてほしいというのが、私の意見です。

よろしくをお願いします。

○秋山委員 三重県子どもNPOサポートセンターの秋山です。

私は、他市には住んでおりますし、去年からの参加でございますので余り桑名市の古くからされているところを把握していないところでの、今回のことだったんですけれど、初め参加したきは、すごい分科会が、細かく分かれていて、いろいろな方が参加していて、すごい子ども・子育て会議だと、私、他の市の子ども・子育て会議に出ていますので、大体は、代表者が出て、外すぐらいな、すごいなと思っていましたら、あらって、この今回のことでは、会議とは別なのかしらと、会議は踊るじゃないですけども、これはどういうことだったのかなというのが、とても不思議な感じがしました。いろいろな事情はおありでしょうけれども、さっきから言っていました国の、やはり私も同じですけれども、国の動向を見てということではなく、桑名市としては、ほんとどうしていくのかなということがあるのが、皆さん、市民しても、お金の税金のことも絡みもあるんですが、触れませんが、やっぱり、桑名市としてどうしていくということがあれば、市民も、もっと協力するとか、そういう気力が出てくる思うんですけども、その辺は、感想なんですけれど。

以上です。

○浅野委員 桑名市の学童連絡協議会の代表で出させていただきます浅野と申します。よろしくお願いします。

ふだんは、仕事をしながら、子ども小学5年生、それから3年生、それから保育園の年長という形で子どもを預けながら、その中で運営に携わらせていただいている状況で、こういう機会、こういう場に呼んでいただけるというところで、少しでも働く保護者の意見をお届けできればなという形で、参加させていただいています。我々は、子ども家庭課さんと非常にふだんから信頼関係を築きながら、子ども学校運営というところで、貢献させていただいて、現場の声を伝えながらも、厳しい行政の中で、協力をしていただいて、子どもたちの安全、安心して過ごせる保育の場をつくっていただいております。

伊藤課長補佐に関しましても、すごく話を聞いただく中で、我々の声を何とか子どもたちの安全のためにつなげたいなという気持ちを見せていただいて、自分は、ほんとに感謝しています。ただ、その中で、どうしても、これ、私もほかの課の方ともお話をすることが多いんですけども、先ほども各委員さんが言われるように、プロセスというところが非常に大事なかと。やはり、今後計画やっていく、そして、実行していく中で、

しっかりと、現場の声を聞いていただいたり、それから、行政の考えを伝えていただくというところが、なかなかうまく伝わっていないことが非常に多いのかなと思っております。

ですので、市の行政として、やれること、やれないことというのは、ある程度、段階で決まっていくと思いますし、そこに対して、現場は、ここはどうしても欲しいんだとか、今回の件でも、計画をする段階でしっかりと真剣に考えていかなければならないのではないかと、各関係機関の方からもお話があったという中で、ここでの説明では、再編検討委員会から国の方向性を見て慎重にと書いてありますが、その前から受け取ったということですので、もっとしっかりと委員さんなり、それから行政担当とがしっかりと話し合っ、て、実行する前の準備、そして説明、根回しというとおかしいですけど、そういうところをしっかりとさせていただく中で、今後、他の計画に関しても、しっかりと連携をとっていただければなと思っております。

以上です。

○伊藤委員　今回のことに関して、何か私の感じた印象としては、いろんな、長年子どもに関する会議に出て、何となく私たちの意見が、何か言いわけに使われているというふうに、私は、最初、ずっと感じました。住民参加のまちづくりということで、住民の意見を聞くということで、いろんな会の代表の方が出てきていて、ほんとにとってもいい意見が出ていました。でも、何かその中で、私から見ると、行政にとって都合のいい意見だけ拾い上げられて、都合の悪いことは、取りませんという形で無視されていくような感じがして、本当に住民参加のまちづくりということをやっ、ていこうと思うのであれば、都合の悪いことでも、本当に桑名市として必要であれば、じゃあ、そのできないことを住民の力を借りて、どうやってやっ、ていこうかというぐらいに、いろんな情報を開示してやっ、てくださると、委員のみんなも、じゃ、頑張ろうという気になると思うんですけども、今のような状態だと、会議に出た人みんなが、どんどんやる気をなくして、住民参加のまちづくりなんて、カッコいいフレーズで終わっちゃうという、そういう感じでございます。

○加藤委員　言うことは一つです。今後のビジョンをはっきりしていただいて、市民と行政とのつながりながら、きちんとしたスキームを立てていっ、てほしいなというふうに思います。

話が飛ぶんですが、2ページ目ですけど、もう一回教えてもらえませんか。この、認

定こども園の凍結に至る経緯の中で、このど真ん中に公立幼稚園と公立保育園と書いてあるのは、これは、例えば、こう書いてあると思うんですが、この関連性というのは、私立の例えば、保育園、幼稚園というのは、この絵の中に混ざるという意味なのか。

○川添委員・・・ 私のほうから、今回、この凍結に関する内容について、私もそう思ったことが専門ではないので、経緯については何とも言えないところがあるんですが、ただ、この子ども・子育て会議で徹底するところが、何かこう通る通らないとか、聞いていないとかいう話を聞いたときに、じゃあ、一体この会は何だろうなという感じはします。それと、働く立場から言えば、この幼保の問題というのは、やっぱり女性が活躍社会とか言われている中で、小さな子どもさんたちを安心して、教育も受けられて、仕事ができる、そんな環境づくりが求められていると思いますけど、そういうところに、じゃあ、どうもっていくのかという、一つのビジョンとか、そういうのがないと、幾ら話をしてもらっても、そこにたどりつかなければ、何にもならないんじゃないかなと思います。

子どもたちを育てていくのに、非常に大変だという環境にあるわけですから、そういうところに、住民の皆さんにどう行政として助けてあげるのか、こんなとこの視点も必要なのかなと思います。それと、今までいろいろ御意見がありましたけど、アンケートの問題、この23.3だからやめたということであれば、じゃあ、これいつやるのという話になるので、これも理由にはならないのかなというのは、私も思っています。

以上です。

○小竹委員 桑名市子ども会、小竹といいます。

いろいろありますが、桑名市の子どもと、それを育てていく大人に対して、困っている人を一人でも救っていただきたいなと思います。

以上です。

○小塚委員 子育てサークルの代表で出させてもらっています小塚池条と申します。

私は、子育てサークルの代表という名前で参加させてもらってしまけど、この会議に参加させていただいてからまだ日が浅いというのもあって、この前の経緯については、全く理解不足という状況で、ほんとに一般の子育て世代の主婦と何ら変わりがないんですけども、この2点ですね、市民のニーズの結果、これですけど、就学前の子どもの保護者、確かこれ、うちの子がまだ幼稚園だったので、送られてきたと思うんですけど、このときに、定期的に利用したい教育・保育事業という欄は、今現在、利用していると

ころに丸をつけたかと思います。定期的といわれたら、就学前で幼稚園利用していただいたので、この数値は利用しているところに丸をつけた親が多かったのではないのでしょうかと思います。同じように幼稚園や保育園を選ぶときに、やはり、同じ小学校に上がる子どもさんが多いところはどこだろうということが重要で、なので、うちの子が通う小学校と幼稚園が再編されるのは何年度なのかというのが、私の中では最重要事項で、何年度でうちの幼稚園がなくなってしまうのか。それを何回も問合せしました。そのときに、何回も話されたこととして、うちの子が、年長になるときは幼稚園は利用できませんと言われたのが、3月10日で。年少で幼稚園、保育園と、だから、結局、半年ずらして幼稚園に入れてもらったという経緯がありましたけども、多分、お母さんたちは、急に変えられる、市の方針で急になくなる、急にじゃないかもしれませんが、2年後かもしれないですけど、3年後かもしれないですけど、その育てている保護者にとっては、3年後は年長の3年後は、年少の前に訪れてくるので、早目、早目の決断と変更がないのが、きっと母親からするとありがたいんじゃないかなと思いました。

以上です。

○小林委員 失礼します。私は、食生活改善推進協議会の小林と申します。

この会議は、今回が3回目で以前はわからないのです。9ページの今後の会議のあり方についてというところで、思ったことを申し上げますと、いつも会議だけで終わってしまうのでは、何の意味もないような気がして、その後の、どのようになったとか、皆さんの御意見が出たときに、それが本当に地域に根差して、子ども会議の、何ですか、こういうことだったら、どうしようか。そういうところを進めていっていただきたいなと思っているのです。それで、私たちは、高齢者から本当に未就児の小さい子までかわっていますけども、やはりボランティアですので、実は、行政の下請ではないということをお断り行政のほうへ言わせてもらっています。

行政側としては、多分、そういうふうに思われる方があると思うんです。きょうなんかでも、これ読ませていただきますと、部会のやり方についてのところが、子ども・子育て支援に関して全庁的に取り組んでいくって書いてありますけども、その下に子ども・子育て支援に関することが、多方面からと書いた上で、市民への周知を図りながら協力を求め、全員参加型によるということが書いてありますね。この、これがあれば皆さん、本当に頑張っていって、その後、これが一番下にきたのが、何となくうそでも、私が言った言葉は、ここでわかる。検討してもらって、どうなった、廃止になったりす



ることもあり得るんじゃないかなと思ったり、感じました。

取りとめのないことで申しわけございません。以上でございます。

○下間委員 先ほどのケースについては、話をさせてもらったんですけど、就学以前の施設再編の検討委員会に直接そのときに、委員として、または事務局として、直接この24年の再編の委員会に事務局として、出ていた人はおりますか。いない、いない中に、経緯が出て、いなくても、それは伝達されて来ておると思うんですけど、やはり、我々は、その中でずっとこの再編以前にもっといろんな会議がありました。でも、何十年でこの桑名市の会議には出てきております。

そういう中で、行政のほうは、やはりそのときにたくさんの方がおって、でも数年したらいなくなるんです。我々が、どんなことを訴えていっても、それが反映されずに次々行って終わってしまっ、ああという感じで、いつになったら我々の思いが通じるんだらうなという形で来ております。実際、わからない人が経緯を説明しても、わからん、でも、我々はその経緯の中でずっとやってきております。その辺のところをもうちょっと深く反省して、考えてもらいたい。それが一つ。

もう一つは、保育園の運営をやらせてもらっていて、今保育園が非常に、保育園に入れることが難しくなってきたと思います。入れる手続をするに対して、書類が非常に多くなってきたおる。それから、希望しても全然、兄弟も一緒のところに入れないとか、そういうことが、物すごい起こっておるんです。市に対して働きかけておるんですが、でも、なかなか話が進まないとなつて、やはりその辺のことも市民の皆さんが、先ほども言ったように、もっと考えてもらえる方法を、考えていただければありがたいじゃないかなと思います。

○委員長 ありがとうございます。

いろんな御意見をいただいたり、今までのことも全ていただいていますので、これを今、私がすぐまとめろというのは、少々難しいですが、先ほど、一つ二つ質問があるので、まず資料の2のところの、凍結に至る経緯というところ。

○事務局・・・ 2ページの公立幼稚園・保育所についてですけども、公立ということではなくて全てというのでございます。ただ、今回、この資料で御説明させていただきましたのは、公立の認定こども園設置の凍結についてでございまして、公立幼稚園、公立保育所というふうな表記とさせていただけるということでございます。

○委員長・・・ はい。

○副委員長・・・ ありがとうございます。

皆さまの御意見を聞きながら、改めてこの委員会のあり方ということ振りかえる機会になったと思いました。この資料の中では、認定こども園の凍結に至る経緯ということが書かれているはずですね。たくさんの委員の方もおっしゃったように、その根拠とするところが、三つ挙げられているんですけども、本当にじゃあ、これなのか、あるいは、その他というところで、この文言だけの書き方の内容は、こういう扱いでいいのかというのの一つある。

それから、2については、皆さんと同じなんですよ。一方で、凍結に至る経緯説明だけではなくて、この子ども・子育て会議への扱いというか、報告ということが、不十分だったというのが、今回の会議から、不十分というか、どういう扱いだったのかという会議であって、その扱いをされていなかったというあたりの問題が噴出したというのが、前回の会議だったなと思っています。

その経過の中で、市の担当者と何度も私も話をさせてもらったし、それから、市長にも直接話もさせてもらったんですけども、やはり、会議という、市が設定する会議について、市の職員それぞれが、どういうこの会議の意義と、それから、どういう会議として、市民の方に委員さんがこうやって時間を押してきていただく中での意見を一つ一つどう扱うのかということが、やはり不十分だったのではないかと。扱いについて、真摯に向き合ってたとは言えないんじゃないかということは、申し上げさせていただいたんですね。

なので、子ども・子育て会議だけではなくて、市が、幾つかの会議があると思うんですね、その会議一つ一つをぜひ、きちんと捉えて、事務局としての役割を全うしていただくということを再度お願いしたいと思っています。いずれにしても、継続的なことを言っていないといけないなと思いつつも、この経緯については、少し不透明なところ、それから、まだ釈然といかないところというのを多分、委員の方も、私もそうですけれども少し持っているということも、再度認識いただきたいなと思って、申し上げたいなと思います。

○委員長 今、幾つか出されていて、まず一つは、私たちのこの委員会、会議が、どういう進展になっているのかということと、もうちょっと明確にするということと、それから、合意形成をする際には、やはり、それこそ皆さん、この中だっているいろいろな御意見

があるし、いろいろな立場があるし、その中で合意形成をしていくというのは、大変な作業なんだけれども、そのプロセスをととても大事にしてきたと私は思っています。皆さんが大事にしてくださった。

だから、そういう会議の持ち方というものを、やっぱり歴代の担当事務局は務めていただいたわけですから、それは当然わかっているものだというふうに私も理解をして進めてきたわけなんですけれども、その辺を大事にしていくということが今、お話として出て、こんなことがあったがゆえに、みんながそれぞれ心配もしているというのは、決していいことではないのですが、あえて、こういうふうなことを、こんなふうに、何か加えることはないですか。あるいは、今、こういう皆さんの御意見を聞いて、事務局側で、何かお話ししただけのことではないですかね。

座ったままでいいです。この会議は、基本的に座ったままでやっていたから。

○事務局　いろいろ御意見をいただきましてありがとうございます。御意見をいろいろお伺いしております、改めて国の動向、いろいろな動向が、不透明なというふうなところで桑名市のビジョンが、表せていなかったところ、また、ニーズの分析をもう少し具体的に、みんなの声を聞いていろいろなお声をいただいたこと、全庁的に取り組んでいくというのは、今までもそうだった、当たり前なことじゃないかというふうな御意見、いろいろな御意見をいただきました。今回、今、委員長がおっしゃったように、この会議の中で、皆さんの御意見を聞きながら、行政と市民の皆様が一緒になって、築き上げてきたこの過程を本当にもう一度しっかりと、事務局が受けとめて、言われたとおりこの会議だけではなくて、ほかの会議の中でもそのことを改めて考えていく必要があるというふうに教えていただきましたので、今、おっしゃる意見を一つ一つ、もう一度事務局としても、再度、しっかりと皆さんのお声を心に刻んで考えていきたいと思えます。

そして、この子ども・子育て会議のあり方を、どういうふうに進めていくかということとを明確にする、それが本当に今まで、進めていっていただいた皆さんの御意見を、一緒に議論しながら、子どものこれからの施策を考えていくというようなところは、基本的には、そのとおりです。そこを十分しっかりと皆さんの意見を反映させる、あるいは、情報提供するということは、今回できていなかった、それは本当に一番の原因だと思っております。そこは、これからは、そういうふうな皆さんの信頼が今、薄れているというのは、重々、きょうの御意見で、それ以前から感じておりますので、皆さんの信頼を

取り戻せるようにしっかりと取り組んでいきたいと思っておりますので、いろいろ御意見いただきまして、本当にありがとうございました。

○委員長　　ほか、いかがですか。

○水谷委員　　一番最初に申し上げたんですけれども、今、福祉部長がおっしゃっていた国の動向が不透明なんですか。

○事務局　　国の動向が不透明ということを経由に、桑名市のビジョンをしっかりとやっていただきたいというような御意見をいただいたということを経、今、お話の中で、改めてさせていただきます。

○水谷委員　　確かに国としても、行政の中で確かにそうなんではあるんでしょうけれども、みずからの決断してるところ、我々のこうするんだというところがないから不透明に見えてしまう、不安定に見えてしまうところで、突っ込んだら何がいただけるんだろうという気持ちで求めていけるから、それが不透明だと思えてくるような気がしてならないというのは、これは自分に対する反省も含めましてですけれども、現在、国が進もうとしている道は、私自身は不透明ではないと思っております。

27年にスタートして、確かに大混乱を起こしました。ですが、1年をあけてもう少しは反省していつているし、また、選択肢として整理されているのが、非常にシビアになってきておりますし、その中で、桑名市が動いていないから、不透明に見えているだけなんじゃないかなと、利用者負担についても、四日市は違いますね。他市の動向に追随する必要は決していないんですけれども、桑名市として、どうしていくべきかというところが定まっていない感じです。なぜ定まっていないか、我々は、ここでそれを決めないということに宣言をしたわけですが、じゃあ、誰が決めていくのか。決めていく誰かさんがしっかりしていないからじゃないのかなということを経さらながらに、改めて感じる場所ですので、改めて振り返って、この会議にどんな権限が与えられているのかということを経、恐らく明文化するぐらいのことをきちんとして、もちろんここで決めたことが全て、議事、議題として上程されるわけではもちろんありません。しかし、そのプロセスにおいて、どんな方が、どんなふうに関をとりもって、上程にまで持っていつていただけるのかということの透明さを今後に求めたく、いたします。

○事務局　　失礼します。さまざまな御意見、本当にありがとうございました。こういう言い方をすると大変失礼なんですけど、僕がそちらの立場に座っていたら、いわゆる、同じように同じ思いを持ったんだしたら、それを真摯に受けとめて、今後に関省を介し

て、やりたいと考えています。私がお話を聞かせてもらおうとお答えしたらあかんこともあるのかもわかりませんが、今ちょっと、先ほど申し上げたとき、きちんと調べないと軽々にお話ができないところがたくさんありますので、申しわけないなと思っています。ちょっと語弊があつて申しわけないですが、この国の動向が不透明というのは、教育の立場に立って申し上げますと5歳を義務教育化するというお話が、燃え上がったときがありまして、義務教育化になったら、全てが根底から変わるようなところがありまして、その部分を主としてさせてしまっているというのは、ただ、今言うそれ以外のところで言うと、全然不透明ではなくというふうに言われると、その方針が全部出せば、というふうに感じております。

それともう一つ思っているのは、先ほど委員さんが言われた合意形成というのは、非常に難しいなというのが正直なところございまして、その中で市の今の状況を考えた上で、どうしていくかということ、意見を大事にしながらやっていくということ、もう一度再構築をしたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。

○委員長 一つはお願いということになると思うんですが、私としてもなかなか経緯まで御説明いただいたとは思えないし、ただ、先ほど誰も責任をとっていないじゃないかというふうに、お話があつたんですけど、私、この会議が責任追及できる会議なのかどうかというのもなかなか難しい立場でもあるので、犯人捜しとか、責任を追及することはないんですけれども、ただ、この間、皆さんが、何となく感じている行政と、この委員会のメンバーとの不信感みたいなものを、やはり、それをつくってしまった責任は、恐らく私にもあるでしょうし、皆さんにもあるということであるということ、きちんとして記録なりなんなりに残しておいてほしい。

それはなぜだというと、我々はこの事業計画をつくるという役割で、そして、その事業計画にのっかって、市が事業を推進していくということを進行管理していくという役割ですね。そうすると、進行管理をしていく上では、やはり行政が、あるいはここに書かれているものが、円滑に進んでいるかどうかということ、情報交換をしながら、確認していくという役割は、最低限度あるだろうと。その情報交換がなされなかったということなわけです。そこが、まず今回の大きなことでした。なので、やるかやらないかとか、それ自体を議論するということが今、私たちが、ここですぐさまやれるということではないかもしれないですね。今、ここで、何も私たちが、資料を持っていないです。その根拠になるものも持っているわけじゃないので。ただ、どういう審議過

程を経ているかということも含めて、情報公開をしていただいて、それを受けて、私たちは、そこで一定の意見を持ち合えるということがなされなかったということを、まず認識していただきたいと思うんです。

それと、幾つか、皆さんが分析をなさっている、分析ということについて、少々認識不足であるということは免れないだろうと思います。データの読み方、あるいは先ほどから出ている当事者の声を聞くというふうな手続きをしなかったこと。そういう意味では、先ほどから出ている、まさにプロセスを踏まえて、政策決定をしていくということが、十分ではなかったということが、これも明らかになってしまっていますので、そこは真摯に受けとめてほしい。私自身は、その方向において、どうこう申し上げてきたつもりなんですけども。それに対して、今、石川さんも黒田さんも一応受けとめていただいたというふうに、私自身は思っておりますが、ほかの人たちどういうふうに受けとめ方をされているかということになると思うんです。いかがでしょうか、きょうは、意見交換であり、それを議事録に残すというのが、私も狙いであったわけで、すぐさま何か反省会をみんなでしましょうというわけではないので。

よろしいですか。何か、つけ加えることはありますか。何か、まだ、つけ加えてください。

○水谷委員・・・ 繰り返せば、繰り返すほど20年前からの会議をもう一回、そのままやり直すということになりますので、20年間かかって言うたこと何も通じてへんのかという、そのところが恐ろしいんです。だからといって、私自身が、そんなに頻繁に来ていたかということ、そんなことはないんですけれども、今、日本は大きな転機だと思うんですよね、子ども・子育て関連3法を抱えて、その点に市として真っ向から、ほんとうに向かっていっているとは、なかなか思い切れない。そこへ行くと、名張市とか四日市市は、向かっていっています。小規模保育もやっていますし、やるのはいいとはよう言わないんですけども。認定こども園も、もちろんあるわけです。

もう一つのステップとして、我々、私の立場として言わせていただくと、今後、私立の幼稚園が認定こども園に手を挙げる可能性がありますし、既に挙げたところがあります。じゃあ、それはいいのか、悪いのか、市としてそのところはどんなふうなプロセスになっているのか、というところにおいては、ここでは、議論されないわけです。されないけれども、市の中で起きていることに変わりはないわけです。

その辺の心配な事項というのは、実は私立の幼稚園がいつまでも私立の幼稚園として

存続していくとは限らない。ちなみに、下世話な話ですけれども私どもの幼稚園が例えば、認定こども園になりますと、年間大体、4億から4億5,000万ぐらいを頂戴することになります。大変な額です。それを踏まえて、恐らく認定こども園、やめとこうということになったような気がします。ただ、それは不透明なところです。たくさんのお思いを抱えて、子ども・子育て関連3法ができたわけですから。国として、国を挙げて決して不透明ではなく、前に進もうとしているわけですから。市としてそれをバックアップして、できることをやっていこうという決断さえあれば、決して不透明には見えなような気がしますけど、生意気ながら申し添えをさせていただきます。

○委員長 決して十分ではないとは思いますが、実は、この委員会で、先ほどからずっと申し上げているように、この計画の進行管理をしていながら、まさに子ども・子育ての充実を図っていくというのが目的ですので、くれぐれも今回の轍を踏まないように、お願いしながら、信頼回復をしていっていただきたいというふうに思います。

なぜかという、子ども・子育て会議を立ち上げた桑名なわけですから設置義務ではないものをあえて立ち上げて、しかも、市長が目指す全員参加型の市政をとということに、私たちは共感しているからこそ、努力をしているわけでありまして、これは、御説明いただきましたけれども、要するに、大意は、我々が汲んでいるわけですから、それをより具体化するときに、つまづくというようなことは残念なことです。そういうことのないように、お願いをしたいと思います。一応、この会議は、大体2時間ぐらいでということを進めてきていますので、きょうの主たる議事は、これでよろしいでしょうか。

もう一つ、その他というところで、実は、松岡委員が熊本にいらしたということですので、情報交換をして頂けるということですので。

○事務局・・・ すみません。松岡副委員長のほうには、事務局のほうから熊本のほうの子どもたちの状況の支援ということで行きましたので、ぜひ、この会議で取り上げていただけないかとお願いをいたしましたので、よろしく願いいたします。

○副委員長 皆さん、お忙しい中ありがとうございます。先日、熊本のほうに行ってみまして、何かあてがあった、つてがあつて行ったわけではなく、乳児を持つお母さんたちが大変厳しい状況になるというのをニュースで見ましたので、何かやれることはないかということで、突然で、震災後1カ月たった熊本に入りまして、見せかけなのかもしれませんが、支援ということをやってきましたので、こういった機会をいただいたので、ここのところの学童へ行って、講演会を出してもらってそこでもちょっと情報

いただいたので、見たこともない写真もあるかもしれませんので、少し御披露させていただこうかなと思います。震災というのは、やはり私、野口委員長が東北のほうに支援をなさっているというのを聞いていたので、一度その話もお聞きしたいなというふうに思っていたので、本当は、東北と熊本というところで、両方を対比しながら、お聞きいただくと、大変いいのかなと思いますながら、お話をさせていただきます。

震災が起こると、非常に被災者と言われて、あるいは、震災弱者と呼ばれている人というのが出てきて、高齢者であるとか、障害を持った方々であるとか、そういうのが取りざたされるんですけども、一般にやっぱり、これプラス、乳幼児を持った方、それから、発達障害のお子さんを持った御家族ということにも、いろんなしわ寄せというか、大変な状況がすぐさま起こるというのが言われています。

これは、飛行機から撮った、熊本へ行った当日の飛行機から撮ったものなのですが、見ていただくと、わかると思うんですが、もう何割というか、非常に高い確率でブルーシートが屋根にかかっているという状況が、自然にというか、そんな感じで、特に、ひどい地域もあるんですが、そんなような状況だということです。頻度的に言っても、随分、頻度が高いなというのが、目に入ったときに、青いという印象があって、これは少しちょっと、ある部分は衝撃を受けました。下にありますと、こんな感じなんですね。実際、震災が起こって、このブルーシートが、手元に来るのが、4～5日たって、来たんだけど、この屋根に乗せる作業ができる人とできない人の差が非常に大きくて、なかなか雨漏りの中で耐え抜いたという方も多かったようです。空港に降り立って、空港自体は、まだまだ仮設トイレです。1カ月以上たっても仮設トイレであるということが、これも機能を早く再生させた熊本空港というのは、すごかったなと半分思いつながらも、仮設であったということがあります。

支援のメッセージというのは、非常に心強いということがわかっていたし、町中を歩いてみても、あたかも支援のために外から来ているという風貌なので、普通のお店の方、コンビニの方々が、「ボランティアなんですか」とおっしゃるんです。「三重から来ました」というだけで、「ありがとうございます」と、そのお方もおっしゃるんです。熊本市民の方々の、それこそ誠実な思いを日々感じながらさせていただきます。

それから、子どもたちというのは、震災直後は結構ハイな状況になって、なかなか声を吐露しないし、そのハイテンションがずっと続くというので、最初は、この子も守らなくてはと思っていたのに、なかなか、そのハイテンションの中、大騒ぎをしちゃって、



母親もいっぱいいっばいで、なぐってしまう、たたいてしまう。それが、閉鎖的な、車の中であれば、なおさらなんです。どうにも息苦しいところに、子どもは、ストレスを発散させながら、母親は、それを受けとめ切れず、ストレスによる子どもを乱暴な扱いをするというところは、日常、子どもたちの健全な発育のためには、日常をなるべく早く回復させてあげたいというようなことで、避難所にも、キッズスペースというのをつくるようにした。

これは大分後になってからですが、でも、ここにあるようにトイレの出たところにそのシートを敷いてという、それでも、あるだけましですというようなことがあって、そのことと、わがままを言うてはいけないというような思いと、緊張というのがすごく浸透しているなと思って、大変なんです、ちょっとずつ頑張りますという声を聞くほうが、何か辛いかなと思いました。

西原村と御船町、それから益城という一番被害のひどかった、その3カ所も避難所を回りながら、何をしたかといいますと、一つは、私は熊本市のセンターのところで、以前、講演をさせてもらった御縁があったので、まずそこを訪ねて、そしたら、避難所に女性のトイレに女性のグッズと、この相談先を書いたカードを張りつけた、これをとにかく届けたいんだという館長さんがおっしゃったので、2日かけて、3カ所十数カ所の避難所を回って、置かせてくださいということを行政の方に御説明をし、そして、女子トイレに直接入って、グッズを置いてきたという活動を二日間しました。このように足元がない、ここからここまで、わかりますか、その下がすっかり抜け落ちて、これ宙ぶらりんの状態だということですね、跡形もないんですけども、目の当たりにしたことは、多いです。ここで、何人か亡くなったのか、亡くなっていないのかなんてことは、私たちは、知る由もないんですが、

ただ、非常に、こういう現場というのは、あちこちにあるということですね。ボランティアセンターに行きますと、この若い方たちが、被災した方もいましたが、東北からたくさん来てる、それはすごく私も感動しましたが、以前、石巻におられた方とか、石巻から来ました、石巻のバスの話をちょっとお伺いしたんですが、震災で被災をして赤ちゃんたちというのが、やはり、夜は興奮して夜泣きとかいろいろして、この避難所にいにくくて、大体外に抱っこして出なきゃいけないというのを見かねた方が、石巻からバスが来ているから、そのバスに頼んであげるって、本当に普通の方が、頼んでくれて、バスをその避難所のそばに持ってきてもらって、そこに乳児を抱えたお母さんたちが行

き来して、よく2日間、泣き声をほかの人に聞かせずに寝られたということを聞いたそうです。

やはり、これも震災が発生した時に聞くとするんですけども、行政の支援を待っていたら、大体死にますよねっていう状況になりますよね。そう思うと、本当に市民とお隣同士の力をどう合わせるかという状況に至りますので、そういうことをほんとしみじみと感じたということです。ちょっとこれ、若干ぼかしているんですが、さっきの避難所の睡眠の問題とか、暴力の問題というのは、やっぱりあって、小さい子が一人で遊んでいるんですね。非常に危ない、危険だなというふうに思えてきた。声をかけるのかお母さんも大分離れたところにおられたんですが、そういう状況が子どもと24時間一緒にいるとしんどくなってくると、日中だともういやと思って、離れて、小さい子が一人で公園にいる。こういった状況も非常に厳しいなというふうに思いました。

これ、熊本城、せつかなので、とりあえず最終日に走って、写真を撮ってまいりましたが、熊本城、こころ辺は全部瓦が落ちています。ただ、あれだけの地震で、崩れないというのはすごいなと思いましたが、ここの白壁が、本来、これぐらいの高さですずっと起きているはずなんですけど、熊本城に行った方は御存じだとおもいますが、ずっと長い白壁があるの、全部向こう側に倒れている状況です。ここをちょっと見ていただきたい。これが、2010、4年前ですから、12年か13年、熊本の私、学会に行ったときに、撮った写真なんです。だから、こういう様子だったんでね、熊本城が。見たら、写真あるじゃんかと思いましたが、しっかりした石垣があるはずなんですけど、ここはすっかり崩れ落ちて、元の熊本城にしてもこれずれているのがわかります。

それから、私は助産師というあれだったので、ハーモニーっていう男女共同参画センターに来られたお母さんと、その子が7カ月なんですけど、皆さんわかるようにちょっと小さいんですね。生まれた体重を聞きましたら、800グラムの子だったそうです。800グラムの子が7カ月たってまだ5キロぐらいでしたかね。やっぱり震災後、おっぱいが全く出なくなってということで、たまたまいたもんですから、その相談とかちょっとお話しさせていただきました。これが、その男女共同参画センターのハーモニーというところです。

被災をしますと、とにかく着のみ着のまま、全員が老若男女全員が、避難所にいたりするので、そうなる、ちょっとしますとやはり女性の着替えの問題だとか、女性ならではのいろんな課題を抱えて、とてもしんどいということが起きてくる。このハーモニ

一は、すぐさま女性専用の避難所を2階、3階でフロアを解放しまして、女性だけの避難所というのを立ち上げて、今も私が行った時も女性たち五十数人の方がおられました。そういう規模も、ぜひ桑名市さんも考えて、また、備蓄の問題もそうですね。考えていただきたいなと思います。

これは、高齢者の福祉に関係がある施設なんですけど、なかなかそれに入り切らない方が、高齢者の方と境、特殊で集めている介護看護の施設なんです。ここだと、かなりの看護、介護、一般ボランティア、シフトというか、誰が来て、誰がお世話をするのかというシフトもシフト表張ってあるんです。ただ、なかなか非常勤看護の方が、入っていただくのも大変だし、介護の方もとなるとニーズにほんとなかなか沿えないんだとおっしゃっていました。こういうのも、当然ながら、必要となってくるであろう。被災、熊本地震は、あってすぐさま、実はうちの団体で、お母さん向け、ママ向けの防災教室をやろうというふうにして、企画をして、桑名市さんと共催で実は20何日か研修を土曜にさせてもらいました。総勢、ママと子ども合わせて80名弱の方々が来られて、実際にここでもう意識を変えて、帰りに防災の整えていただく、意識を変える防災教室をやろうとって、うちがたまたまスタッフに防災コーディネーターがおりましたので、それから栄養士から栄養の話をし、ビニール袋で御飯の炊き方を実演し、実際に食べていただいて、聞くだけではなくて、感じて、「さあ、動こう」というところまでの目的でもって、研修をさせていただいて皆さん方好評だったかなと思います。

震災後1カ月間たって被災地というのは、いろいろあれですけど、やはり住むところというのが一番の願いだということですね。一ヶ月経ってお母さんたちの幾つかの支援者の方にも聞きましたが、短時間でいいので、子どもを預かってもらえる場所というのが欲しいということです。罹災証明書をもらうにも、それから、何かの物資をもらいに行くにも、小さい子、あるいは乳幼児を2人抱えて、並ばなきゃいけないというあたりも大変だということも訴えておられました。それから、お母さん自身が、いらいらを解消する手立てがなくて、ときどき怒っちゃうしというような話ですね。

それから、支援物資というのは、今は、本当にいろんなところへたくさんあります。逆に余っているものも種類としてはあるんですけど、そういうものも取りにきてくださいというふうな形でセンターの方がおっしゃると、なかなか実際、ばんばん来る方が少なくなって、なぜかというところ、スーパーが、あいているし、薬局があいているのに、その物資をもらう抵抗感をお持ちで、なかなかお金があると、お金と手持ちのもので買えば

いいじゃんといわれるのがいやだとか、いろんな申しわけないんだということを言われる方もおっしゃっていました。

それから、1ヶ月経つと1ヶ月後というのは、マスコミで取り上げられているんですが、だんだん、やはりみんなに忘れ去られるのではないか。市内でも、震災のあったなんてことを忘れちゃっているんじゃないかという不安感というのか、そういったものもありました。支援の継続をすることもそうですけど、何よりまだまだ避難所というのを運営しておられる方もいるので、やはり、私も支援のプロでは全然ないんですが、感覚として被災地の支援と被災者の支援と支援者の支援、この三つが重要ではないかとほんとに思いました。それから、継続してほしいと、私たちが会ったおばあさんからお話しさせて頂いた中で、ちょっとほほえましい話をしますと、リュックが欲しいと言っていたので、それも丈夫でかわいいやつ、でもここら辺から、ニーズが出てくると、生きるか死ぬかっていうとかあれですと、やっぱり持ってもかわいいやつといえるママっていったら、少しある部分は落ち着いておられるのかなと思って、私たちは、被災したママにリュックのコーポレートでも立ち上げようじゃないかということで、今、やっております。そういう状況変化が始まりましたらば、また御協力をいただきたいなと思います。簡単ではございますが、報告をさせていただきます。ありがとうございました。

(拍手)

○子ども家庭課長補佐      本日は、長時間にわたりまして、本当にありがとうございました。本日の子ども・子育て会議を終了させていただきます。

今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。

(閉 会)